

= 幸せの・・・ =

新しい年を迎えた、毎年のようにニューイヤー駅伝、箱根駅伝を見ながらの年はじめ。ただいつもと違うのは、静かな年明け。年末に岳父（享年91）が他界し寂しい年越し。私は次男坊だからか、いささかしきたりに疎い。喪中のお正月について調べてみたら、鏡餅、正月飾はしないように、おせち料理はお正月の祝いなので控える、特にめでたいことを意味する鯛や海老、紅白のかまぼこなどは避けるようにとある。ただ、そうしたものを除いたものであれば、普段の料理として食べても問題ないとのことで、初詣の三社参りも控え、ちびちびやっている。

長いお付き合いをしたお義父さんの大往生。あとは、私に任せてくださいと、お酒の力を借りて遺影に挨拶。今年も、これからもがんばっどー…。

そんな今日は1月2日。年に一度行われる日本の正月行事で、書初めの日。年の初めに文字や絵をかくことをいい、新年に向けた抱負や祈願をしたためることが多く、目標や努力を表す言葉のほか、健康や幸福などを願う四字熟語を書くのが定番となっているという。私の書初めは仲間の皆さんへのメッセージ。

いくつ年を数えても、良い年でありますように、幸せな年でありますようにと願うのはだれしも同じはず。幸せといえば黄色…古い映画のイメージですみませんが。

わが家の玄関先の花壇に妻が植えた黄色に咲くプリムラ（花の名）にもそんな思いがこもっているのか。黄色い花は西に植えると縁起が良いとされている。早春に咲く花が多いのが特徴らしく、夏は太陽、秋は黄葉と競り合っ目立たないためなどと面白い話もある。

1月～2月の寒い時期に咲く蠟梅（ろうばい）もカスタードクリームのような柔らかく明るい黄色の花、優しい香りを漂わせる。そして、その名に間違いなしの福寿草（フクジュソウ）。雪国に春一番を告げる代表の花といわれている。雪解けとともに、きれいな黄金色の花を咲かせ、幸福と長寿を呼ぶ、めでたい花として愛されている。北から南から、働く仲間のために、幸せの黄色い花が咲き誇る一年を願うばかり。…んっ、大丈夫、酔ってませんよ（笑）

ところで、基幹労連は今年結成20周年を迎える。非鉄、鉄鋼の素材産業から建設、造船重機、航空宇宙産業にいたる、まさに基幹産業にかかわる産別組織として20年。荒波にさらされながらの苦しい時期、時に陽の当たる日もある中で、旧産別の統合に向けた先達の熱い思いを形に変えながらの20年、かかわったすべての仲間に、先輩に、感謝の年でもある。卯年にふさわしい飛躍を期さなければならない。

そのうさぎ、後ろに進めない。私たちに置き換えれば歴史に学ぶことはあっても、その上に胡坐をかくことは後退を意味する、前に、前に。また、上り坂は得意だが下り坂を駆け下るのは苦手という説も。私たちも常に次なる高みをめざしていかなければならない。

おっ、忘れていた、四字熟語。私なりの思いを込めて。まずは「安全健康」、そしてAP23春季取り組みで働く仲間の「安心安定」、それを土台の「活力気概」、さすれば企業競争力は強化し、働く者・企業人としての「自信誇持」となし、それが組合員とその家族の「笑顔幸福」につながる。

そして今一つ、幸せの黄色の花にはベニバナがある。聞いたことがあるだろうベニバナ染め、古くから花が紅色の染料として使われてきたことにちなむという。その色は、赤にも黄にも。

働く仲間とその家族の今年一年が、寒い冬の太陽のようなあったかい赤色と、幸せの黄色に染まりますように。

ご安全に

2023年1月5日

日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一